

今日のみことば

□ 9月3日(日) 出エジプト 3章

神は燃える柴からモーセに語りかけた。神はモーセに驚くべき任務を与えようとしておられた。彼は全く気が進まなかった。次から次へと異議を申し立てた。

□ 9月4日(月) 出エジプト 4章

神はエジプトに帰って、イスラエルの民を奴隷の状態から導き出すように、と命じられた。神は助けを確約され、モーセはエジプトへ帰った。

□ 9月5日(火) 出エジプト 5章

モーセとアロンはエジプトの王パロに会い、イスラエルの民を去らせる子とを願った。パロは願いを退け、さらなる苦役をイスラエルの民に課した。

□ 9月6日(水) 出エジプト 6章

アロンとモーセの系図、有名な祖先だけを列挙した系図である。レビの家系を通してのヤコブの子孫であることが示されている。

□ 9月7日(木) 出エジプト 7章

モーセとアロンはパロのもとに行き、民を去らせることを要求した。神から遣わされて彼らはパロの前において、その使命を証明するために、しるしを示した。

□ 9月8日(金) 出エジプト 8章

神はパロに、イスラエル人を自由にさせるために、エジプトの民に災害を送られた。かえる、ぶよ、あぶの災害を通して神は、イスラエルを行かせることを求めた。

□ 9月9日(土) 出エジプト 9章

疫病の災い、はれ物の災い、雹の災いを神は下されたが、エジプトの王パロはかたくなに神の要求をはねのけた。神に逆らう者のしぶとさをつくづく教えられる。

ろ ば No. 1831

2017年 9月 3日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

コロサイ 3:12

あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。

キリストと共に新しいのちに新生された私たちの人生は一変しました。ウエストミンスター小教理問答の第一問は「人の主な目的は、神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶことです」とあります。クリスチャンは過ぎ去ってゆく地上の事柄には心は奪われない。天におられる栄光のキリストのお姿を見つめつつ「上にあるもの」だけに関心を持つようになる、とパウロは私たちに語ります。

しかしそれは、この世的なものとの一切の訣別という意味ではありません、それ以上にパウロは、この世のあらゆる関係を正しく持続けることができるようにと願っていました。パウロはキリストにあって生きる時、私たちはキリストと一つの体だと言います。

だから「何を話すにせよ、行くにせよ、すべてをイエスの名によって行い、イエスによって、父である神に感謝しなさい」と言います。確かに、私たちに最も大切なことは「あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい」(3:1)ということです。「あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れる」(3:4) 希望に私たちはいのちを見えています。そこには、古い自己に死んで、キリストにあって生きる新しい私がいるのです。そのことを私たちが自覚することができるのは、私たちの生きているその生

活が変わったときです。パウロは「怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を捨てなさい。互いにうそについてはなりません」(3:8-9)と言いましたが、キリストにあって生きる時、それが起こるのです。今日までどれほど多くのクリスチャンの先輩たちが、その喜びの体験を語ってくれたことでしょうか。私たちもその仲間に加えられたいです。

そう願う私たちにパウロは、「あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。」と勧めました。私は、キリストと共に新生させていただいた私たちには、それができると信じています。「造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達する」(3:10)ことがパウロの勧めです。古い人を脱ぎ捨て、新しい人を身につけることです。それこそキリストにあって生きる時、私たちは体感させていただくのです。イエスが教えられたように、悪い木によい実が結ばれることはないのです(マタイ7:18)。

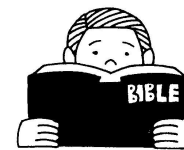
今日は本当に生きることが大変な時代です。「生き馬の目を抜く」という言葉が生きているこの時代に、み言葉を生きるということがいかに難しいことかを私たちは承知しています。パウロは「これらすべてに加えて、愛を身につけなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです」(3:14)といえます。私たちには強力な助け手がいることを忘れてはいけません。主イエス・キリスト様が一緒だと言うことです。「キリストにあって」とはそういうことです。知っている、信じていると言いつつ、自身で行動をする愚かさを、どれほど繰り返していることだろうか、考えてみて下さい。もっと主イエス様を信じることで、そしてみ言葉を生きるなら、これはかないます。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

士師記 2:16-23 かたくなな歩みを捨てられず

士師記には、ヨシヤアの死からサムエルの誕生までのイスラエルの歴史が記されている。およそ200年の間、全国を統一する政治的指導者は現れず、各民族は各々独立して行動をとってきた。そのような状況にある民に、神は士師(さばきつかさ)を遣わされた。彼らは、政治的・軍事的指導者であった。

しかし彼らが皆、主を立てられた士師に従ったわけではありません。ここには、イスラエルが何度も何度も経験した、罪、さばき、悔い改めという連鎖を概観している。どの世代も、神を愛し従うことを、次の世代に教えませんでした。しかし、それこそが神の律法の要でした。その任務は家族に託されており家庭こそが信仰を次の世代に引き継ぐ、最も適切な場所なのです。民は神への背信のゆえにさばかれ、神のあわれみを求めて叫び、神は祈りに応えて下さるが、その信仰は次につながれず次の世代はまた同じことを繰り返しました。



Read God's Word.